

# 事例報告：三重大学の広報活動

Mie University Scholarly E-collections  
三重大学 学術機関リポジトリ 研究教育成果コレクション



平成19年7月3日

国立情報学研究所平成18年度CSI委託事業  
報告交流会（コンテンツ系）

三重大学 学術情報部 情報図書館チーム  
図書担当 河谷宗徳

<http://miuse.mie-u.ac.jp/>  
<http://lib.mie-u.ac.jp/>  
[miuse@ab.mie-u.ac.jp](mailto:miuse@ab.mie-u.ac.jp)

# 1. リポジトリ構築の経緯 (1)

## ▶ フライト準備

- 2006年2月 **附属図書館運営委員会**
- 2006年3月 **役員打合会** (学長 + 全理事) で報告・了承
- 2006年4月 テストサーバ導入
- 2006年5月 学術情報ポータルセンター設置  
(附属図書館 + 総合情報処理センター)
- 2006年7月 CSI事業採択
- 2006年7月 **学術情報ポータルセンター会議**  
(センターの中核事業として位置付け)
- 2006年8月 CSI業務計画書提出

# 1. リポジトリ構築の経緯 (2)

## ▶ 滑走から離陸へ

- 2006年9月 名称(愛称)の決定
- 2006年9月 **部局連絡会、教育研究評議会**での説明
- 2006年10月 ロゴマークの決定
- 2006年11月 サーバ試行運用開始
- 2006年11～12月 全部局の**教授会**での説明  
医学部、人文学部、教育学部、工学部、生物資源学部、共同利用施設
- 2007年1月 サーバ正式運用開始(ハンドルシステム導入)
- 2007年2月 学位論文、科研費報告書の学内調整
- 2007年3月 正式公開

## 2. リポジトリ業務体制

### ▶ 情報図書館チーム内にWG設置

- 総括：チームリーダー
- 企画、システム：サブリーダー + 情報リテラシー担当チーフ1名
- 契約、予算管理：予算担当チーフ1名
- 広報・著作権処理：情報リテラシー担当チーフ1名 + 同担当2名
- メタデータ・電子化仕様検討、電子化コンテンツ収集：  
図書担当チーフ1名 + 雑誌担当チーフ1名
- 電子化、メタデータ入力作業：ILL担当1名 + 派遣職員2名

通常業務に近い分担とし、持続的取り組みを目指す！

## 3. 広報活動：成功の要因

### ▶ トップダウン

- 学長、館長(情報・国際交流担当理事)の理解・支援  
学長から「各学部でも説明をお願いします」との言葉  
(9/20教育研究評議会)
- 学術情報ポータルセンターの中核事業として  
<http://www.i-portal.mie-u.ac.jp/>

### ▶ ボトムアップ

- 情報リテラシー教育支援活動の実績
  - 教授会等での積極的な広報活動 図書館の認知度向上
  - 授業やゼミ単位講習会 個々の教員とも信頼関係を構築

## 3. 広報活動：名称とロゴ

### ▶ MIUSE: Mie University Scholarly E-collections

三重大学 学術機関リポジトリ 研究教育成果コレクション

- 学問と芸術の女神Museをイメージ
- ユニークな愛称とするために「MIUSE」

### ▶ ロゴは大切なシンボル

- 三重大学のアクティビティを躍動感あふれる人のイメージで表現

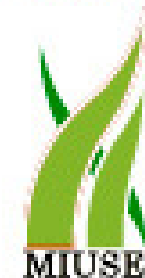
Plan A



Plan B



Plan C



## 3. 広報活動: 教員へのアピール(1)

### ▶ 教授会でのプレゼンテーション

- サーバを仮公開し、実物を見ていただく
- 全5学部教授会 + 学内共同教育研究施設等教授会
- 好意的な反応も「Googleで検索できるなんて凄い！」

### ▶ 個々の教員に対しては

- ターゲットを絞って論文リストを作成し依頼
- 情報リテラシー講習会の場でもPR

論文(紀要以外)約1000件の提供があった

## 3. 広報活動：教員へのアピール(2)

### ▶ 教員から寄せられた質問

- 著作権処理
- 個人情報やプライバシーの問題
- リポジトリ登録の手続き
- 収集対象(論文以外は?)
- 電子化などのテクニカルな問題
- 事業の継続性(予算、人員)
- 修士論文の扱い
- その他 「業績集として使えないか？」



## 4. 著作権許諾交渉(1)

- ▶ 広報担当が著作権処理を行う
  - 論文提供者に、迅速で柔軟な対応を
  
- ▶ 海外出版社の場合
  - SHERPA/RoMEOを参照
  - 必要に応じて個別の問い合わせ
  
- ▶ 国内出版社の場合
  - 「学協会著作権ポリシーデータベース」
  - 積極的にオープンアクセスを働きかける

## 4. 著作権許諾交渉(2)

- ▶ **生物資源学部紀要の包括許諾の取得**
  - Agropediaで公開済みの紀要論文を対象に  
農林水産研究情報センター「農学情報資源システム」
  - PDFデータをいただいて、メタデータのみ入力
  
- ▶ **学内関連部局との調整**
  - 学位論文(教務委員会)  
リポジトリ登載についての同意書の提出の制度化
  - 科研費報告書(研究協力チーム)  
報告書提出依頼にあわせて同意書を送付

“**育ち続けるMIUSE、**  
**自立できるMIUSE、**  
**使われるMIUSE”**  
を目指して！

ご清聴ありがとうございました。